

総合講演・報告 2

グローバル原子力人材育成ネットワークによる戦略的原子力教育モデル事業

Strategic Nuclear Education Model Program by Global Educational Network for Nuclear Human
Resources Development

(4) 第3分科会「原子力国際展開に向けた人材育成」の成果

(4) 3rd Subcommittee: Results of Nuclear Human Resources Development
for International Future Leader

*関東 康祐

茨城大

1. はじめに 第3分科会では、原子力工学の基礎知識を既に有している優秀な学生を対象に、優れた国際感覚、高いコミュニケーション能力や情報発信能力を有するグローバル原子力人材育成を目的とした海外派遣事業を実施しており、その成果について以下に述べる。

2. 実施内容および成果 フェーズ3においては、平成28年度に大学連合参加校から選抜した3名の学生をタイのチュラロンコン大学及びマレーシア国民大学(UKM)へ併せて1週間派遣し、現地の学生と交流を図った。この派遣では、最初に、日本の学生からそれぞれの研究成果について及び福島第一原子力発電所事故に関連する我が国の状況について発表を行い、これに応じてチュラロンコン大学及びUKMの学生達からも研究成果やそれぞれの国の原子力の計画や放射線利用の研究状況等の発表があり、これらを踏まえて学生達で議論がなされた。この討論ではそれぞれの国における原子力の取り組み、また日本からの原子力技術輸出などが議論され、福島の経験を含めて日本の原子力技術に対する期待の大きさを知ることが出来、今後の研究や勉学に対する大きな刺激を与えられた。

また、平成29年度においては、大学連合参加校から選抜した2名の学生を国際原子力機関(IAEA)に派遣してインターンシップ研修を行い、国際感覚の醸成を図った。派遣した期間は平成29年年10月1日から約2.5か月間であった。このインターンシップ研修を通じて、人種、国の壁を越え、多くの人々と関わり、そして友人を得ることができ、国際的に活躍できる人材とはどのようなものかを認識する国際機関ならではの体験をされた。また、日本という国が国際的に見てどの位置に属しているか、どのようなマインドで諸課題を考えていくべきかを感じ取ることができた。

本事業では、フェーズ2の平成26年度(2014年度)よりIAEAのインターンシップ研修へ学生を派遣しており、これまでに8名の学生を派遣した。また、平成28年度と同様な短期の海外大学へフェーズ2の平成25年度にも6名を派遣した。従ってこれまでに派遣した学生は合計で9名となった。それぞれ上記に示すように、それぞれ現地の人たちと交流し、日ごろの大学生活では、経験できない多角的な観点から物事を見るという貴重な時間を得て帰国した。

3. おわりに 平成30年度は、平成29年度と同様に大学連合参加大学から選抜した2名の学生をIAEAのインターンシップへ9月より約3ヶ月間派遣する計画をしている。今年度も多数の応募者があり、意欲はありながら選抜に漏れてしまった学生も多数おられた。相手側からの期待も大きく、予算の関係でどうしても人数を絞らなければならないが、今後もこの事業を継続し、少しでも多くの学生を派遣することを期待したい。

*Yasuhiro Kanto
Ibaraki Univ.